

## 「賢い学者(仮)」 ver. 1

登場人物 シテ(京の学者), アド(主人), 太郎冠者

### 場面 1

人物	セリフ	演技
アド	<p>このあたりの者でござる。2年ほど以前の、原発事故によって、このあたりもちーと放射能汚染があるようござる。今日は、地域の住民を集めて、はるばる京からおいでになるえらい学者先生から、いろいろとお話を伺うのでござる。</p> <p>これ、太郎冠者、学者先生はおいでになったかな。</p>	
太郎冠者	<p>これはこれは、遠いところをよーくお出でいただきました。これが私の主人でございます。</p>	
アド	<p>これはこれは、遠いところをよーくお出でいただきました。それがしが、本日の住民説明会の世話人でございます。ここにおりますのは、みーんな田舎のものでございますゆえ、放射能のことなど、何もわかりません。先生様、ひとつ、よろしく説明をお願いいたします。夕方になりましたら、何もない田舎ではございますが、精いっぱい御馳走をさせていただきます。</p>	
シテ	<p>京から来た、えらい学者でござる。このような田舎に住まう者たちが、放射能のことを知りたいとのこと。感心、感心。</p>	
シテ	<p>であるので、放射線に当たるといろいろと危険なことがある。放射線による障害には、確定的効果と確率的効果がある。確定的効果は、ある量以上の放射線を被曝すると必ず影響が出る効果である。一方、確率的効果では、しきい値はない。少しの放射線でも、体にあたると被害が出るのである。</p> <p>これは、外から放射線を被曝するだけではない。物を食べることによって、食べ物に含まれる放射能からでる放射線によって被曝することも、含まれるのである。</p> <p>この被害と申す者は、20年、30年も経ってから、現れるかも知れない、というものである。ちょーっとでも、放射線を被曝すれば、ずーっとあとに、癌になったりするかも知れないのであるぞ。</p> <p>米や野菜を燃やしても、放射能はなくぬならぬのぢゃ。京で</p>	

	特別な方法で、放射能を捕まえて見せるによって、この村の米をあづかるとしようか。後日、佐川急便をこの村へ差し向けようぞ。	
アド	さてはさては、恐ろしいことぢゃ。 原発事故のあと、このあたりにも放射能が下りてきたと聞いております。みどもたちは、何を食せばよいのでござろう。	
シテ	それは、すなわち、セミでござろう。	
アド	なんと、セミとは。あのミンミン鳴いているセミのことか？	
シテ	さよう、そのセミでござる。セミは6年も7年も、土の中にもぐっておる。いま鳴いているセミは、原発事故の時には深い土の中におったはずじゃ。降ってきた放射能も、その深いところまでには届いては、おらん。	
アド	そのセミを食らうに当たって、どのような食べ方があろうか？	
シテ	さよう。京には、ミンミンという中華屋がある。その餃子には、さしずめミンミンゼミが入っておるのじゃ。それから、アブラゼミがおろう。	
アド	しかり。ミンミンゼミの他に、アブラゼミも鳴いて居る。	
シテ	あのアブラゼミは、油を出すゆえ、アブラゼミと呼ばれておるのぢゃ。捕まえるときに、セミはおしっこを掛けよう。	
アド	掛ける、掛ける。	
シテ	あのおしっこが、良質の油なのぢゃ。この油で、餃子を焼くのが良い。	
アド	なるほど。アブラゼミの油で、ミンミンゼミが入った餃子を焼くのでござるか。ほかに、クマゼミ、そしてニイニイゼミがおろう。このクマゼミとニイニイゼミは、いかようにして食す？	
シテ	(間をおいて) そろそろ夕刻であろう。儂は朝早く、都を出て歩いできたことで、大分と腹がすいた。そろそろ、馳走になりたところぢゃ。	
アド	これは気の付かぬことで、申し訳ない次第でござる。では早速。これこれ、太郎冠者。京の学者先生に馳走を持て。	
太郎冠者	かしこまりました、ございまする。	
アド	なにぶん、田舎のこととござって、都のような気の利いたものは何もござりませぬ。すべて、この近くで採れたものでござる。存分にお召し上がりください。	
シテ	これはこれは、かたじけない。この魚は、京ではあまり見ぬ	

	ものなれど、姿美しく、さぞ美味であろう。	
アド	<p>この魚は、太郎冠者がそばの川で獲ってきた、アユでござる。これは、はらわたの苦いところが、酒によく合い申す。 (シテが食べようとするところを)</p> <p>おお、そうであった。近在のものが集まって、NPO 法人を立ち上げたところ、奇特な方からゲルマニウム検出器を頂戴いたしておる。学者先生の食すものの放射線の検査を試みよう。</p> <p>これこれ、太郎冠者。先生のアユをゲルマニウム検出器で測定してみたもれ。</p>	
太郎冠者	<p>承知いたしました。(Ge 検出器にアユを載せるしぐさ)</p> <p>おお、これはこれは、マルチチャンネル波高分析器に、多くのイベントが出てきてござる。</p>	
アド	<p>これは何としたこと。学者先生様は、このアユを食してはならぬ。代わりに、身共が食そう。</p> <p>むむ、これはうまいアユでござる。</p> <p>なに、昨晚も、アユを 10 匹は食したので、本日もさらに 2,3 匹、食しても、いまさら変わりはしまし。まして、20 年、30 年経ってから癌になる、かもしれない、ということであるが、今より 20 年、30 年ののちには、身共は身共のてて親が亡くなった歳よりも、だいぶと年老いていることであろう。</p> <p>学者先生には、このしいたけをお召し上がりください。</p>	シテは、うらやましそうに見る。
シテ	<p>おお、この黒光りしている大きなものは、しいたけであるか。京のしいたけは、も少し小さく、身も薄いものぢや。されは、うまそうなしいたけであることよ。</p>	
アド	<p>おや、何としたこと。大変に失礼を申し上げた。このしいたけも、ゲルマニウム検出器で放射線測定をせねばなるまい。学者先生は、京では有名なお方で、あちこちの殿様方とも知り合いと聞いてござる。このような偉い先生に、放射能が入ったものを食べていただくことは、まかりならん。これこれ、太郎冠者、このしいたけをゲルマニウム検出器で測定したもれ。</p>	
太郎冠者	<p>承知いたしました。(Ge 検出器にしいたけを載せるしぐさ)</p> <p>おお、これはこれは、マルチチャンネル波高分析器に、多くのイベントが出てきてござる。</p>	
アド	<p>これは何としたこと。学者先生様は、このしいたけを食してはならぬ。代わりに身共が食そう。</p> <p>むむ。これはうまいしいたけでござる。</p>	

	<p>いやなに、昨晚も、しこたま、しいたけを食したことによって、今晚もしいたけの二つや三つ、食したことで、変わりはあるまい。</p> <p>しかし、何としよう。これでは、学者先生様に召し上がってもらうものがない。</p> <p>おお、そうであった。先ほど、先生様が身共たちに勧めた、セミを馳走しよう。</p> <p>これこれ、太郎冠者。学者先生に馳走するため、セミを捕まえてまいれ。ミンミンゼミ、アブラゼミ、何でもよいぞ。</p>	
太郎冠者	<p>なんと、食すためにセミを捕まえますか？あのようなものが、食せますか？</p>	
アド	<p>身共もいまだ食したことはござらん。しかれども、学者先生が放射能を避けるには、セミを食すが良い、とお勧めである。つべこべ言わずに、獲ってまいれ。今は日も暮れたことだ。セミはねぐらへ帰っておろう。すぐに捕まえることができるはずぢゃ。</p>	
太郎冠者	<p>されば、セミのねぐらはどこにあるのでござろう。</p>	
アド	<p>そのようなことを身共が知るわけがなからう。セミに尋ねよ。</p>	
太郎冠者	<p>(すごすごと、蟬取りに出かける。)これセミ、お前のねぐらはどこだ？</p>	
アド	<p>先生様、今しばらく、お待ちください。ぢきに、太郎冠者がセミを捕まえて来るによって。いや、それにしても今宵のアユとしいたけは、まことに美味であることよ。</p>	
シテ	<p>(怒り心頭で立ち上がる) やい、主人！</p>	
アド	<p>これは、先生様。いかがなされた？</p>	
シテ	<p>手前は、儂に、セミを食らわすつもりか？</p>	
アド	<p>以下にもさよう。学者先生様が、最前、セミには放射能がない、と仰せになったので、セミを馳走したいと思っております。</p>	
シテ	<p>この、京で有名な学者の儂が、セミのような、蟻しか食わないようなものを食べられようか。この、うつけものが。</p>	
アド	<p>はて、これは如何に？</p>	
シテ	<p>そもそも、放射線にはバックグラウンド、というものがあるのぢゃ。原発事故が起こる前でも、食べ物には、放射能が含まれておる。これは自然の放射能で、儂たちはずっと昔から食べ物と一緒に食しておる。</p>	

	その、マルチチャンネル波高分析器を見せてみよ。ほれほれ、ここに見えているピークは、カリウム 40 のピークである。これは、地球ができたときからある放射能である。あらゆる食べ物に、このカリウム 40 は、含まれておるのぢや。	
アド	しかれども、学者先生は、放射線はすべて危険とおっしゃった。これも放射線では、なかろうか？	
シテ	放射線など、少し被曝しても、へでもないわ。被曝を避けようとしても、避けられぬ放射線が、バックグラウンドの放射線よ。それぞれ、そのアユを儂によこせ。	
アド	いやいや、先生様は、少しの放射線も被曝すれば危険とおっしゃった。	
シテ	良いから、アユをよこせ、しいたけをよこせ。	
シテ、アド	もみ合う	
太郎冠者	<p>いやいや、大変なことであった。帰りがけのセミに話を聞き、セミ共のねぐらを聞き申した。セミは正直者で、ねぐらをすぐに教えてくれたによって、このように百匹ばかり、セミを捕まえてやった。</p> <p>学者先生は、何やら主人と大きな声で話をしておる。さぞかし腹がすいたことであろう。</p> <p>先生様、セミを獲ってまいりました。これからすぐに、セミの餃子を作ってみるほどに、今しばらくお待ちください。</p>	
シテ	やや、本当にセミを食させるつもりか。これはたまらん。早く京に戻り行かん。	
アド 太郎冠者	先生様、セミ餃子が今すぐに、出来上がります。せっかくの馳走。どうか食してください。やるまいぞ、やるまいぞ。	